２　防犯のまちづくり実践事例集について

2-1　作成方法

（１）　**実践事例集作成の目的等**

① **実践事例集作成の目的**

犯罪の多くは、ひったくりをはじめとした街頭犯罪や侵入盗など、日常生活の場で発生している。このような犯罪は機会犯罪といわれ、地域に潜んでいる犯罪を行いやすい環境を取り除くことによって減らすことができる。

犯罪のない、安全で安心な地域環境を実現するためには、「犯行に都合の悪い状況をつくり出すことで、犯罪を防止する」取り組みを、行政はもとより、県民、事業者、ＮＰＯやボランティアが連携して実施することが重要である。そのためには、県内をはじめ全国で実践されている防犯に関わる取り組みのノウハウを共有し、役立てあうことが有効である。

本事例集は、地域において、防犯に関わる取り組みを行う際に、参考となる事例を県内はもとより全国から収集し「防犯のまちづくり実践事例集」としてまとめたものである。

② **事例集作成の体制**

本事例集の作成は、「知恵と汗によるマンパワー事業」として実施した。知恵と汗によるマンパワー事業とは、事業予算はゼロでも、職員が知恵や汗を出して成果を出す取り組みである。

そのため、本事例集の作成に当たっては、事例収集から現地取材、編集作業などすべて県土づくり企画室の職員が行った。予算ゼロで作成した手作りの事例集である。

③ **事例収集の方法**

埼玉県内の自治会や個人を対象に、県広報紙（「彩の国だより」）、県広報番組（「週刊彩の国ニュース」「モーニングスクエア」）、市報などによって事例募集を行った。また、県政出前講座の一環として実施している「防犯のまちづくり出前講座」や、県民の方々を対象とした各種イベントなどにおいても事例募集を行った。

さらに、県内の 71 市町村、全国の都道府県や市町村（約 1,800）に対して電子メールで事例の提供を依頼した。

事例募集については、パブリシティを活用することにより、多くの新聞紙上にも取り上げられた。

（２）　**事例集の編集・構成**

事例集の構成としては、情報提供者が作成した調査票、提供された資料、ヒアリング調査結果、現地取材などに基づき、取組内容を「取組の概要」、「キーワード」、「取組の方針

と内容」、「評価と今後の課題」に整理し、関連する写真、図等を用いてわかりやすく構成、編集した。

なお、掲載した写真については、その取り組みの内容が一目でわかるものを選んでいる。

また、巻末には、参考資料として収集したすべての事例の概要を掲載した。

（３） 防犯を専門とする学識者からのアドバイス

東京大学大学院工学系研究科の小出治教授に、それぞれの事例に対しての評価や改善点、地域で実践する際の留意点などの意見をいただき、「専門家のコメント」として掲載した。これにより、本事例集は、より使いやすく、実践的なものになっている。

小出治教授は、防犯環境設計や都市工学に精通されており、埼玉県が平成 17 年３月に発行した「防犯のまちづくりガイド」の作成に当たっても御指導をいただいている。

2-2 実践事例の応募状況

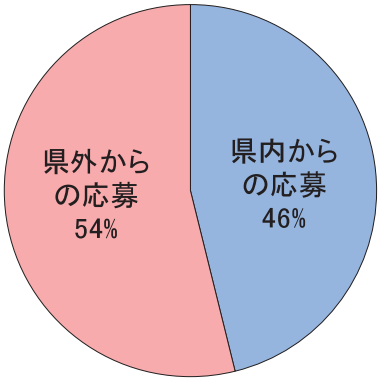
（１）応募状況

平成 18 年４月から８月までの期間に、一般県民（県内の自治会・個人）、県内の 71 市町村、全国の都道府県、市町村（約 1,800）を対象に事例募集を行った。

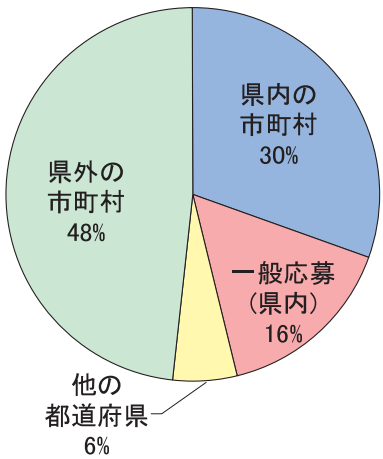
その結果、141 人（機関）の方々から、343 事例の情報が寄せられた（表－１、図－１、２参照）。

表－１：事例応募者の内訳

県内・県外の別	応募者（機関）の種別	応募人数（機関数）	事例数	備考
県内からの応募	市町村からの応募	43 人（機関）	98 事例	
	一般県民の方々からの応募	22 人（機関）	23 事例	
	小計	65 人（機関）	121 事例	
県外からの応募	都道府県からの応募	8 人（機関）	23 事例	
	市町村からの応募	68 人（機関）	199 事例	特別区含む
	小計	76 人（機関）	222 事例	
合計		141 人（機関）	343 事例	



図－１：県内・県外応募の割合



図－２：応募人数（機関数）の割合

2-3　実践事例の特性と傾向

（1）　実践事例の特性

収集した 343 事例を検証すると、道路や公園等の公共空間におけるハード対策とソフト対策に大別できる。さらにソフト対策については、防犯パトロール等の直接的な防犯活動と、清掃活動等により地域のなわばり意識を強くする間接的な防犯活動、情報提供や普及啓発に関する防犯活動に分類できた。また、今回を収集した事例の中で、夜間の照明対策の取り組みが目立ったため、一つのグループとして整理した。

（2）　実践事例の傾向

上記の実践事例の特性から、本事例集では、収集した事例を次の５種類の実践事例に分類した。

①　道路・公園などの整備に関する実践事例

「防犯環境設計」の考え方に基づいて、道路、公園などを整備する際に、ハード面から防犯性の向上を図った取り組みである。ハード面の整備により、死角をつくらない工夫をすることで犯罪者の行動を把握できるようにする「監視性の確保」や、犯罪者が物理的に被害者に近づきにくくする整備を行う「接近の制御」に関する事例が多く見られる。また、ハード面の区画性（区切られていること）を強調する整備を行う「領域性の強化」に関する事例も見られた。

②　道路・公園などの管理に関する実践事例

「割れ窓理論」の考え方に基づいて、道路や公園などを管理する際に、管理意識（望ましい状態を維持しようと思うこと）、なわばり意識（侵入を許さないと思うこと）、当事者意識（自分自身の問題としてとらえること）を向上させる取り組みである。地域の秩序違反を、住民自らが是正することによりなわばり意識や当事者意識を高め、地域の防犯力を高める取り組みが多く見られた。

③　夜間の照明に関する実践事例

夜間の見通しを確保する取り組みである。道路を明るくし、見えやすい環境をつくるだけでなく、住民自らが協力して門灯を点灯することにより、当事者意識やなわばり意識を向上させる活動が見られた。また、最近、犯罪抑止に効果があるといわれている「青色防犯灯」を設置する事例も見られた。

④　地域における防犯対策に関する実践事例

地域で実際に行われている防犯活動に関する取り組みである。防犯パトロール活動や声かけ運動など、多くの事例が寄せられた。

⑤ 情報提供と意識啓発に関する実践事例

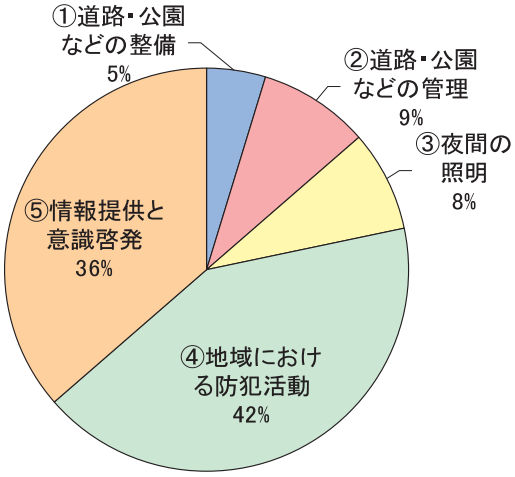
意識啓発などにより、被害対象者自身が強くなる「対象物の強化」に関する取組が寄せられた。また、看板などにより犯罪を抑止する事例をはじめ、斬新でユニークな事例が多く見られた。

（３）応募された事例の分類

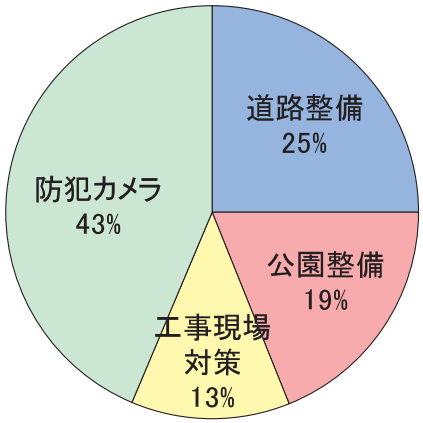
一般県民（県内の自治会・個人）、県内の 71 市町村、全国の都道府県、市町村（約 1,800）から寄せられた 343 事例を前述の①～⑤の実践事例に大別し、さらにその事例を具体的な取組内容別に整理した（表－２、図－３～８参照）。

表－２：実践事例の分類

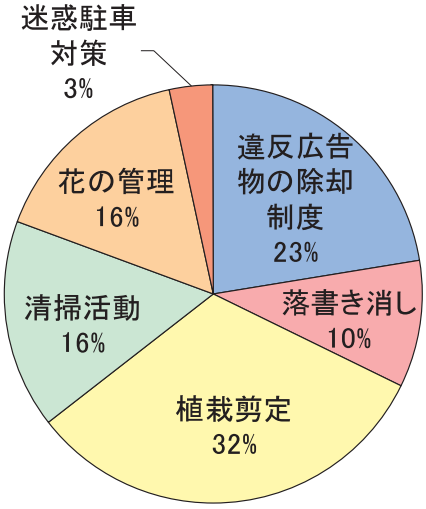
	取組の具体的内容	事例数
①道路・公園などの整備に関する実践事例	防犯に配慮した道路整備	4 事例
	防犯に配慮した公園整備	3 事例
	工事現場対策	2 事例
	防犯カメラ	7 事例
	小　計	16 事例
②道路・公園などの管理に関する実践事例	違反広告物の除却制度	7 事例
	落書き消し	3 事例
	植栽剪定	10 事例
	清掃活動	5 事例
	花の管理	5 事例
	迷惑駐車対策	1 事例
	小　計	31 事例
③夜間の照明に関する実践事例	防犯灯対策	13 事例
	門灯点灯対策等	10 事例
	青色防犯灯対策	4 事例
	小　計	27 事例
④地域における防犯対策に関する実践事例	防犯ﾊﾟﾄﾛｰﾙ・声かけ運動	96 事例
	防犯活動の支援	27 事例
	子ども110番の家	13 事例
	防犯ステーション	8 事例
	小　計	144 事例
⑤情報提供と意識啓発に関する実践事例	防犯ステッカー等の掲示	21 事例
	青色回転灯車	26 事例
	子ども110番の車	6 事例
	放送による呼びかけ	12 事例
	まちづくりのルール	4 事例
	事例集作成	3 事例
	講演会・防犯教室実施	24 事例
	不審者情報メール	13 事例
	広報紙等を活用	8 事例
	地域安全マップ	8 事例
	小　計	125 事例
合　計		343 事例



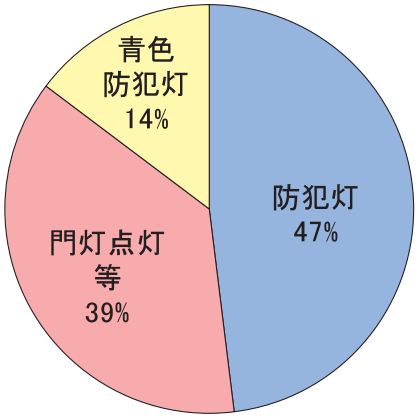
図－３：実践事例の大別



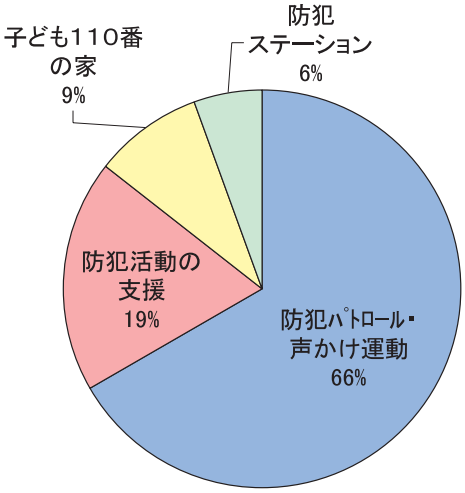
図－４：①道路・公園などの整備に関する実践事例の具体的な取組内容



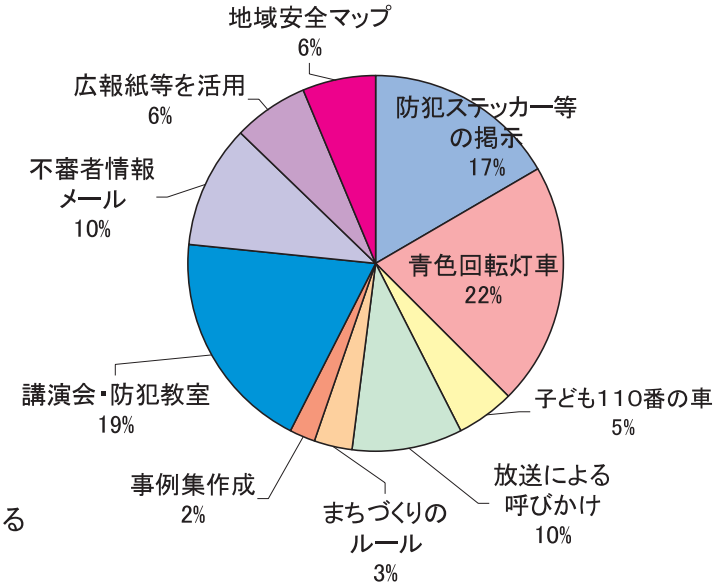
図－５：②道路・公園などの管理に関する実践事例の具体的な取組内容



図－６：③夜間の照明に関する実践事例の具体的な取組内容



図－７：④地域における防犯対策に関する実践事例の具体的な取組内容



図－８：⑤情報提供と意識啓発に関する実践事例の具体的な取組内容